

取組の柱③：多層的な連結性

事例④：グローバル金融連携センター

1. 基本的な考え方

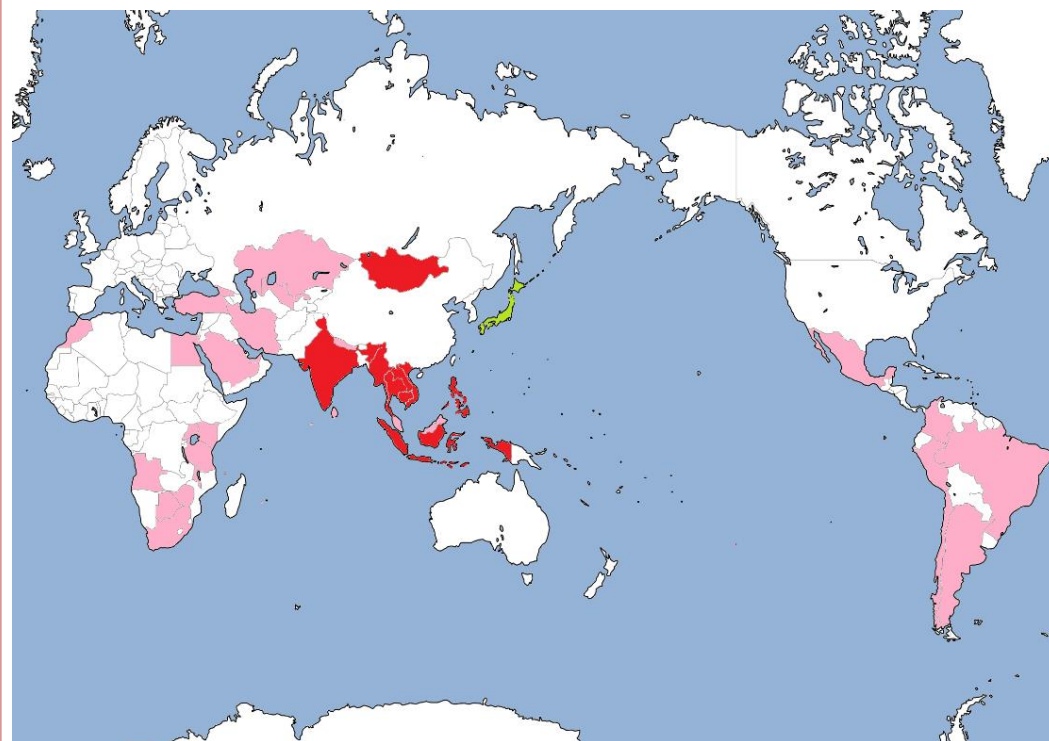
- 従来、アジア諸国の金融当局との人材交流を進めつつ、海外の金融インフラ整備支援や金融当局との協力体制強化を目的とし、取組を推進。
- 近年、金融機関のグローバル展開が進む中、日本企業等の海外進出ニーズに合わせ、支援対象地域をアジア以外にも拡大。インド太平洋の金融面における深い協力関係を実現するため、本取組を踏まえて、「ヒトの連結性」をさらに強化。

2. 具体的な取組

グローバル金融連携センター（GLOPAC）

- 新興国等の金融当局の幹部候補職員を当該当局の推薦に基づき研究員として日本に招聘。2014年に設置（アジア金融連携センターとして）。
- 各研究員の関心に応じて研修内容をカスタマイズする丁寧な研修提供を通じ、新興国等当局との関係強化、金融インフラ整備支援に貢献。
- 2014年以降、37か国・地域より計196名が参加。
- コロナ拡大下ではオンライン研修を提供、2022年11月には対面による研修を再開。
- 研修修了後も当庁職員の出張に併せ、現地で卒業生との会合（アルムナイ・フォーラム）を開催するなど関係維持に努めている。

<グローバル金融連携センター（GLOPAC）受入れ実績>



- 受入実績がある国
- うち5名以上の受入実績がある国